■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア（ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル）、クロス円通貨ペア（ユーロ円、豪ドル円、ポンド円）に関して、週足、日足、4 時間足、1 時間足分析を掲載します。
分析は、全て、先週末 1 月 13 日の日足終値（NY 時間午後 5 時）時点での判断です。

＜＜＜主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析＞＞＞

「週足」はポジショントレードの大局観把握、
「日足」はスイングトレードの大局観把握、
「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、
「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。
尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて
判断することをお勧めします。
例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、
スイングトレードであれば、主に 4 時間足での売買判断、
ゆったりデイトレードであれば、主に 1 時間足での売買判断、
デイトレードであれば、主に 5 分足での売買判断となります。

■ドル円

＜＜週足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

＜＜日足＞＞
緩やかな下落トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを上回ると＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。
緩やかな下落トレンドの特徴は、センターラインと－2σラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところ。したがって、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となる。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

＜＜4 時間足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

＜＜1 時間足＞＞
緩やかな下落トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを上回ると＋2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。
緩やかな下落トレンドの特徴は、センターラインと－2σラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところ。したがって、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となる。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

■ユーロドル

＜＜週足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

＜＜日足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

＜＜4 時間足＞＞
緩やかな上昇トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる
一方、終値が同ラインを下回ると－2σラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。
緩やかな上昇トレンドの特徴は、センターラインと＋2σラインの間を往来しながらゆっくりと
上昇するところ。したがって、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が
有効となる。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサインが点灯中。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、

4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

■豪ドル/ドル

＜＜週足＞＞
レンジ局面。レンジ上限の目途である＋2σラインに接近中。
目先、カウントレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウントレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

＜＜日足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が＋1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。
トレード戦略としては、終値が＋1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

＜＜4 時間足＞＞
緩やかな上昇トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる

一方、終値が同ラインを下回ると－2σラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。
緩やかな上昇トレンドの特徴は、センターラインと＋2σラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところ。したがって、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
目先、カウントレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウントレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。
ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。
尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中だが、最終ターゲットである－2σラインには一旦到達済み。

■ポンドドル

＜＜週足＞＞
レンジ局面。
目先、カウントレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウントレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。
ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、

等々。

＜＜日足＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。

＜＜4 時間足＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。

＜＜1 時間足＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
尚、赤色スパン陽転、及び、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中だが、
最終ターゲットである－2σラインには一旦到達済み。

■ユーロ円

＜＜週足＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて

の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。
ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

＜＜日足＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

＜＜4 時間足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

＜＜1 時間足＞＞
緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。
終値が－1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途
であったセンターラインまで上昇した後に反落している。
今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、
終値が－2σラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

■豪ドル円

＜＜週足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

＜＜日足＞＞
レンジ局面。
目先、カウントートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウントートレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。

＜＜4 時間足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

＜＜1 時間足＞＞

レンジ局面。
目先、カウントレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウントレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。

■ポンド円

＜＜週足＞＞
レンジ局面。
目先、カウントレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウントレーディングの基本戦略としては、＋1σラインから＋2σラインにかけて
の価格帯は戻り売りゾーン、－1σラインから－2σラインにかけての価格帯は押し目買い
ゾーンとなる。
ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、
1）遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
2）終値が＋2σラインの上方にて引ける、もしくは、－2σラインの下方にて引ける、
3）バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
4）遅行スパンがローソク足のみならず、＋－2σラインをブレイクすること、
等々。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中だが、
最終ターゲットである－2σラインに到達済み。

＜＜日足＞＞
緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。
終値が－1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途
であったセンターラインまで上昇した後に反落している。
今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、
終値が－2σラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。

＜＜4 時間足＞＞
本格下落トレンド局面。

終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
トレード戦略としては、終値が－1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。
尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

＜＜1 時間足＞＞
緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。
終値が－1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途
であったセンターラインまで上昇した後に反落している。
今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、
終値が－2σラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、
スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。
また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期
の判断となる。

以上です。